

7. 地方圏

【札幌市】

- 住宅地は0.5%上昇（前年▲1.8%）、商業地は1.4%上昇（前年▲1.8%）となった。
- 住宅地では、市中心部や地下鉄沿線等の利便性が高い住環境良好な地域で戸建住宅、マンション素地への需要が回復しつつあり10区のうち7区が上昇となった。特に人気の高い宮の森・円山地区では上昇基調を強めるなど中央区は4.3%上昇（前年0.0%）となった。
- 商業地では、10区のうち6区が上昇となった。特に札幌駅北口エリアではオフィス需要が堅調で、空室率も比較的安く賃料も上昇傾向が見られ、また、地下鉄駅に近い商業地ではマンション素地需要も堅調で、北区は2.3%上昇（前年▲1.3%）となった。札幌駅南口エリアでは地下歩行空間の整備による店舗需要やマンション素地需要が高まる中、再開発事業等の進展が複数見られ、中央区は2.5%上昇（前年▲1.1%）となった。

【仙台市】

- 住宅地は2.7%上昇（前年0.8%上昇）、商業地は2.1%上昇（前年▲0.6%）となった。
- 住宅地では、被災者等による移転需要が強く、戸建住宅、マンションともに売り物件は少ない状況にある。また、貸家は満室状態となっており、全ての区が上昇となった。
- 商業地では、被災地の復興関係者による事務所需要や店舗の売り上げは依然好調であることのほか、土地区画整理事業等の進展から商業施設が充実し、商業地としての需要が堅調となっている地域が見られ、全ての区が上昇となった。

【金沢市】

- 住宅地は▲1.8%（前年▲2.6%）、商業地は▲1.2%（前年▲2.3%）となった。
- 住宅地では、「まちなか定住促進事業」効果もあり、都心回帰の傾向が見られ利便性に優れた地域で上昇や横ばい地点が昨年に比べ増加した。一方、郊外の自然的条件や利便性に劣る地域では下落が続いている。
- 商業地では、平成26年度に北陸新幹線の延伸開業が予定されていること等から県内の最高価格地点の他7地点で上昇となったが、他の多くの地点では引き続き下落している。

【広島市】

- 広島市の住宅地は▲1.7%（前年▲2.3%）、商業地は▲0.7%（前年▲2.2%）となった。
- 利便性及び住環境が良好な平坦地の住宅地域では需要が堅調で上昇や横ばい地点が見られる。特に中区はJR山陽本線とアストラムラインとの結節点となる新白島駅が平成26年春に開業される予定から上昇地点も見られ、0.2%上昇（前年▲0.9%）となった。
- 商業地では、中心商業地である八丁堀交差点周辺及び紙屋町交差点周辺で新たな大型商業施設の開業が相次ぎ、繁華性の向上から、中区が0.3%上昇（前年▲2.4%）となった。また、JR広島駅周辺の再開発事業等の進捗から東区が2.8%上昇（前年0.1%上昇）となった。

【福岡市】

- 住宅地は0.7%上昇（前年▲0.3%）、商業地は2.3%上昇（前年▲0.7%）となった。
- 住宅地では、戸建住宅、マンションとも需要が堅調で、7区のうち4区が上昇となった。特に早良区を中心にマンション素地の取引が好調で、早良区は2.3%上昇（前年1.9%上昇）、中央区は2.6%上昇（前年0.4%上昇）となった。
- 商業地では、博多区が平成23年3月の九州新幹線の全線開業とJR博多シティの開業を受けて博多駅周辺は依然高い集客力を維持し3.7%上昇（前年0.0%）となった。また、高容積率の商業地について堅調なマンション素地需要を背景に、中央区が2.3%上昇（前年▲1.2%）、南区が2.1%上昇（前年▲0.8%）、早良区が3.5%上昇（前年2.3%上昇）となった。なお、7区のうち西区を除く6区が上昇となった。